# 西田雅昭氏採集三木市産数種ハムシの記録

## （兵庫県甲虫相資料・237）

高橋寿郎

三木の中学生西田雅昭氏はハムシが好きで、ハムシと食草の分布調査をテーマに一年生のときから取り組んでこられ時々筆者の所へもお便りを頂いたりしたが、1989年10月お手紙を頂き中学生最後のしめくくりとして平成元年度日本学生科学賞兵庫県審査出品作品に選ばれ10月28日—30日間神戸市立青少年科学館別館4階に展示されているので都合がついたら見てほしいむね御連絡を頂いたので10月30日見せて頂いた。“三木市大村のハムシと食草分布”と題して壁に詳しく観察の状況を説明され、同時にドイツ型標本箱大2ヶにハムシ標本が多数出品されていた。標本は全部台紙に貼付されているが、整脚されていてはっきりしたラベルと共に気持の良い美しい標本で驚いた。その中で兵庫県産ハムシとして記録しておいたら良いものが何点かあったので出品者西田雅昭氏の御了解を得て此処に記録をさせて頂きたいと思う（採集者は全部西田雅昭氏でなく他の方の採集品もあるので、それ等は個々の種の説明の所で入れおいた）。この様な立派な標本を見せて頂く機会を頂き発表を許され、さらに個々の種についての採集状況を詳しく御教示下さった西田雅昭氏に厚く御礼を申しあげさせて頂きたい（既に本誌前号で紹介しておいた様に此処に記録のハムシ類は三木中学校生物部採集報告書、1989の中に収録されているものであるが、一般には見る機会が少ない報告書と考えられるので、あえて此処にその内のいくらかを再記録させて頂いた）。

○　キンイロネクイハムシ *Donacia japana* CHUJO et GOECKE, 1956

本種は県下では宝塚市大原野、養父郡氷の山々麓の2ヶ所が知られており、大原野では多数いることが報じられているが、その他の地では全く記録が見られない。この度三木市大村産の1 ex.（2- V-1987）を見ることが出来た（採集者は永幡嘉之氏で氏の私信によると、採集地にはスゲ類が生えており大村には転々とスゲ類が見られるとのこと）

○　ユリクビナガハムムシ *Lilioceris merdigers* (LINNÉ, 1958)

従来兵庫県下からは多紀郡篠山1ヶ所だけが知られていただけであったが、三木市口吉川町大島に

は割合いることがわかった（1ex.，19-V-1988，6exs.，26-VI-1988，3exs.，10-VII-1988）（採集者は稲見　誠氏で西田氏のお便りによると、実際はもっと採集されている模様）。

本種に就いては別に詳しく報告させて頂く。

出品標本の中にトゲアシクビボソハムシ *Lema cornata* BALY, 1873 が2exs.（1ex.，18-VI-1987，1ex.，29-VI-1987）あったが（報告書では3exs.，29-VI-1987となっている）　この標本はその後永幡氏が再検討してキバラルリクビボソハムシ *Lema concinnipennis* BALY, 1865の同定誤りであることがわかったと御連絡頂いた。従って報告書も訂正しなくてはいけない。キバラルリクビボソハムシは兵庫県下に広く分布し、特に神戸市内では普通に得られるクビボソハムシである。

○　トホシクビボソハムシ　*Lema decempunctata* GEBLER, 1830

クコクビボソハムシとも言われクコを食草とするハムシで一時クコが流行した時期、割合と見ることの出来たハムシのように思うが、最近は余りお目にかかられなくなった様にも思われる。川西市大和には多産の報告もあるし（仲田、1980、1982）、神戸市内でも採集出来ている。美方郡浜坂町あたりの記録もある（磯野、1985）。

三木市末広　4exs.，30-IV-1988，9exs.，11-VI-1988（報告書では 1ex.，23-IV-1988，14exs.，30-12exs.，11-VI-1988となっており、西田氏からの私信では1989年5月4日に1♀を採集しているし、三木市本町で永幡嘉之氏が1ex.，29-IV-1987採集しておられると。三木市内では広い範囲にごく普通に見られるが個体数の変動がはげしいと西田氏は言っておられる）。

さらに西田雅昭氏からの私信ではキオビクビボソハムシ *Lema delicatula* BALY, 1873を自宅（三木市末広町）で目撃（5-V-1989）したが逃げられたとのことであった。この種も県下での記録はそれ程多くないが、どうしたことか神戸市烏原貯水池畔では可成り採集出来る種である。

西田氏からは三木市正法寺のスダジイの樹皮下からイチモンジハムシ *Morphosphaera japonica* (HORNSTEDT) を採集（4exs.，1-VIII-1988）。　さらに口吉川町善祥寺でクモの巣にかかった1ex.を得たとの御連絡を頂ている。この種は良く知れているように日本産ハムシの中で一番早く記載された（1788。徳川第11代家斉の治世）種として良く知られている。分布も割合広いようであるが、それ程普通に見られると言ったハムシではないようである。兵庫県下では次の様な産地があり、特に神戸市内烏原貯水池畔では多く産する。食草はイヌビワ、オオイタビ、オオバアコウなどが知られている。

兵庫県下の産地。洲本市先山［堀田、1976］。川西市笹部［仲田、1978、1982］。神戸市摩耶山（3exs.，27-V-1953）、烏原貯水池畔（2exs.，30-V-1973～1ex.，30-VII-1984，30exs.）。三田市千

刈貯水池東岸大岩山（1ex.，6-Ⅶ-1973，1ex.，8-Ⅵ-1974，1ex.，20-Ⅶ-1974）。氷上郡沼貫［山本、1953］。城崎郡日高町岩中［高橋、1976］。美方郡浜坂町字都野神社［磯野、1985］（ⅩⅡ-1989)

追記。本稿脱稿後平成2年1月14日（1990）西田氏より以上のべたものの内、ユリクビナガハムシ5exs. トホシクビボソハムシ4exc. をわざわざ御恵送頂いた。厚く御礼を申しあげさせて頂く。

また、三木中学校生物部採集報告書に記録されているヤナギホシハムシ2exs. も御恵送頂いたが之は残念ながらアカタデハムシ *Pyrrhalta semifulva* (JACOBY) と同定すべきであった（西田氏はシダレザクラをすくって得たと言っておられた 14-Ⅴ-1988、11-Ⅵ-1988、サクラを食草にしているハムシである）。

（Ⅰ-1990)

# ニシキキンカメムシをめぐって

高橋寿郎

1989年8月15日一通の封書を受けとった。差し出された方は大西旦（あきら）と言う方で筆者にとっては初めての方である。拝見するとニシキキンカメムシの生きている写真を撮りたい。昆虫が好きで10年程カメムシに興味を持って調べているとのこと（同封の名刺には小学館第一編集部副編集長とある）。神戸に来た時拙著「六甲山の昆虫たち」を購入、読んでいてニシキキンカメムシが兵庫県の赤穂郡上郡と西宮に記録があるが（p.104）これらの詳しい産地とどんな所にいたかなどの状況を教えて貰えないだろうかとのことであった。実は上郡産のものは1967年8月神戸大丸屋上での恒例の神戸生物クラブ鑑定会の席上へ米村和繁氏採集の6exs.，（3―Ⅴ―1966）を持参されて見せて頂いたもので産地が赤穂郡上郡と言うだけで詳しい場所とか産出状況の説明は無かったと思う。西宮での記録は水谷芳昭・殿男和男氏が西宮市尼ヶ谷で採集された1♂2♀（昆虫と自然、Vol.4,No.3,p.24,1969）である。実は筆者も自分で本種を採集したことは無く県下の記録があるのでなんとか自分の手で採集して見たいものだ、と思いつつ現在にいたっているむね返事させて頂いた。同じ属のアカスジキンカメムシは兵庫県下でも割合とお目にかかれるのに、このニシキキンカメムシはどうも良くわからない。色々の文献を見ても九州では割合いるようだが、その他の地では可成り局所的産出しか知られていないようなので一つ県下での産を確認する努力をして見たいものだと思うと同時に、会員の皆様にも是